



かつて京都ではオーバーツーリズムが問題になりました。行政も「来てください」とPRしますが、黙っていても来てくれるんです。むしろ混雑を平準化する、あるいは来たときのケアを考えるなど、ソフト面を拡充すべきなんです。

### インバウンドの受け皿整備が急務

——先端ツーリズムコースでは、この管理技術も教える予定なのです。

実は観光でうまくいっている国はないですが、講義では海外の成功・失敗事例も紹介します。日本はものづくりで成長してきましたが、経済回復のために観光事業は極めて重要です。日本人の国内観光だけでは間に合いません。インバウンドに大いに期待したいのですが、環境整備をしてこなかったツケが今回ってきています。

例えば、今はスマホがあるので行き方の説明はさほど必要ありません。神社仏閣が案内板を作る際には書体や色が重要で、これも管理技術の領域に入ります。観光業界の低賃金の改善も大きな課題です。コロナによって「観光業は不安定」という印象が強くなり、多くの人が業界を離れました。私が徳島・祖谷で運営する9軒の宿泊施設でも、やはり人手不足に悩まされています。

アクセスや景観管理、条例・規制、英語力など、取り組むべき課題はたくさんあります。インバウンドが急拡大する一方で受け皿整備が追い付いていない現状を、私は「混沌カオス」と称しています。本気で取り組まないと、中国やタイなど他の国に観光客が流れてしまいます。

——オーバーツーリズムの問題について解決策はありますか。

オーバーツーリズムが生じるのは仕方ない面もあります。ただ、地元の人々が利用する路線バスへのスーツケース持ち込みを禁止してタクシー利用を促す、あるいは観光専用バスの導入も考えられます。やり方次第で改善や緩和が図れるはずですが。行政の人たちにも、もっとビジネスマインドを持ってほしいですね。先端ツーリズムコースではこうした問題提起もしていきます。

——人気の観光都市・京都で先端ツーリズムを教える意義は大きいですね。

京都は文化財の密度、景観、職人技術などすべてがそろっているという意味で、東洋、いや世界に1つしかない素晴らしい町です。京都先端科学大学で担当する先端ツーリズムコースは、観光や歴史をそれぞれ単体で学ぶのではなく、「観光×歴史×デジタル」を統合的に学ぶものです。先ほど触れた管理技術は、まさにこのデジタルに当たります。

日本が好きで長年携わってきた私のライフワークが、持続可能なインバウンドビジネスの発展に貢献できるのはうれしい、いいタイミングだと感謝しています。秋からの講義が楽しみです。講義では主に京都がテーマになりますが、他の都市にも横展開できれば日本全体の観光業の質の向上になると思います。

## 急回復するインバウンド——今こそ本気の変革が求められる観光立国ニッポン

# 持続可能なインバウンドビジネスに向け 先端ツーリズムで一から立て直す

東洋文化研究者／京都先端科学大学 人文学部 教授 **アレックス・カー** 氏

アレックス・カー氏は1964年の初来日をきっかけに日本の魅力に引かれ、古民家を活用した宿泊施設を運営するなど観光事業に携わってきた。今年4月に京都先端科学大学の教授に就任し、学部横断型の「先端ツーリズムコース」を担当する。急回復するインバウンドに対しては、日本の脆弱な観光施策を危惧している。持続可能なインバウンドビジネスを実現するため、知見の提供・共有、人材育成などに尽力するという。

### Profile

1952年米メリーランド生まれ。父が米海軍で弁護士を務めていたことから、64年、12歳のときに初来日し、横浜に居住。ミエール大学日本学部卒業後、日本に住居を定め、73年祖谷(徳島県三好市)で取得したかやぶき屋根の農家など、日本国内で古民家を活用した滞在型観光事業を手掛けている

——京都府亀岡市にある天満宮の境内に移築された尼寺を改修して、長年住んでいらっしゃいます。今年4月に京都先端科学大学教授に就任されましたが、担当する「先端ツーリズムコース」はこれまでの知見を存分に発揮できる場ではないでしょうか。

すごくいい縁だと感じています。コロナウイルスの感染拡大が少し落ち着いてインバウンドが急回復し、今年中には2019年時点の水準(約3200万人)まで戻るそうです。京都市内は既に混雑し、朝のバスも地元の通勤客が乗車できない事態も起きています。

今や日本は「行きたい国」の上位です。近い将来6000万人に達する可能性もあります。景気回復のチャンスである一方、危機でもあります。それは様々な面で受け皿ができていないからです。——どういう面が気になるのですか。

例えば、東京の高級ホテルでさえ英語が通じないスタッフがいます。コロナ禍で観光業から離れた人材が戻らず、必要なサービスが間に合っていないのが実情です。人気の観光施設でも予約・入場システムが十分ではありません。いわゆる管理技術というもので、海外の大学では博士コースもあるほどです。

### “観光×歴史×デジタル”を学ぶ新しいツーリズム

## 京都先端科学大学が挑む「未来社会を支える人材育成」

京都先端科学大学 人文学部 学部長／心理学科 教授 **佐藤嘉倫** 氏 Sato Yoshimichi

京都先端科学大学では2023年度から「先端ツーリズムコース」を開講し、アレックス・カー教授が担当します。ツーリズムにフォーカスを当て、京都の歴史と文化をデジタル化の潮流の中で学ぶ学部横断型のコースです。これからの国際ツーリズムに求められる持続可能なインバウンドビジネスについて多角的に考察します。単に基礎知識や専門知識を詰め込むのではなく、「今何が起きているのか」を知り、ものの考え方や対応力、柔軟性などを身につけて、課題解決に立ち向かえるような知的創造力の高い人材を育てたいと考えています。また、観光業に必要な不可欠な英語力の向上にも、本学は以前から力を入れています。



5月10日には「KUAS 京都先端セミナー」を開催しました。第1回は「“観光”は“立国”か?」と題し、講師としてアレックス・カー教授が登場して好評を得ました。京都先端セミナーは一般の方も無料で聴講できるシリーズ企画で、「本学はこんな面白いことをやっています」という発信をするとともに、本学の世界クラスの教授陣から未来へのメッセージを届けていく予定です。